

「成功のために必要な通過点」

校長 桐野 和之

今年の新語・流行語大賞が『爆買い』、『トリプルスリー』に決まりました。この賞はこの1年の間に発生したさまざまな「ことば」の中で、軽妙に世相を衝いた表現とニュアンスをもって、広く大衆の目、口、耳をにぎわせた新語・流行語を選ぶとともに、その「ことば」に深く関わった人物や団体を毎年顕彰するものです。この新語・流行語大賞にかつて『Jリーグ』が選ばれたことがありました。

かなり前のことですが、Jリーグが発足して、サッカーの人気の高まりはじめた頃です。日本のサッカー代表チームがワールドカップ予選を通過し、はじめての大会出場を目指した時に、イラクを相手にした最終試合がありました。勝てばワールドカップの出場が決定します。しかし、この試合で日本チームはあと40秒のロスタイムで1点を奪われ、引き分けに持ち込まれてしまいました。そのためワールドカップ出場はなりません。『ドーハの悲劇』と表現されます。この当時、老若男女を問わず、日本には大きな興奮と落胆が共通のものとなりました。巷のサッカー評論家によれば「日本チームの『勝った!』という油断が、魔の一瞬を生んだのだ」とよく言われました。



しかし、私にとっての驚きは、相手のイラクチームだって、あの状況では「もう駄目だ」と思うのが普通なのに、最後まであきらめずにシュートした粘りです。もちろんイラクだって「負けては国に帰れない」といったお国の事情があったのかもしれませんが。だとしても、あのシュートをもってしても試合の結果は「単に引き分け」になるだけです。それでもなお、最後の一瞬まで全力で戦い続けたのはなぜでしょうか。その力の源は何だったのでしょうか。それは私にもよく分かりません。ただ、その答えを探していくことに、もしかしたらスポーツの、さらには、生きることの意味があるのかもしれない。

その当時日本代表チームにいたラモス選手は帰国後のテレビのインタビューに「なぜ負けたのか、いくら考えても分からない。昨日も一晩中神様とお話ししたが、神様も教えてくれない。ただ、この負けたという事実はきっとこれからの日本のサッカーにとって必要なことだと思う」と語っていました。



敗北をマイナスに受け止めない。その本物の強さがラモス選手を一流のプレイヤーにしたのだと思います。そのようなラモス選手の話をつと思い出しながら、私は自分の子どもとよくやるオセロゲームを思い浮かべました。

一瞬にして例えば「黒」から「白」へ変わるオセロ。嫌なことが続いたり、努力しても思うような結果が出ないことが続いたりすることもあります。しかし、そのような嫌なことも一つの過程であるとプラスにとらえ、取り組んでいくことが大切だと考えます。

私は人生には「黒」が一瞬のうちに「白」に変わる瞬間があると思います。それを信じています。「中学校生活はいつも楽しいことばかりではない」、確かに嫌なこともある。でもそれはもっといいことがある一つの通過点ではないのでしょうか。苦しくなった時にこそ、前を向いてしっかり進むことを考えることが必要だと思います。



学校保健委員会を終えて

養護教諭

12月3日(木)に学校保健委員会が開催されました。学校保健委員会は、学校における健康の問題を話し合い、生徒の健康づくりを推進するための組織です。今回は、学校医、学校歯科医、学校薬剤師の先生方、PTA 役員の皆様、校長、副校長、栄養士、養護教諭が参加して、本校の学校保健活動の状況や生徒の健康に関して報告・協議をしました。概要は以下のとおりです。

【定期健康診断結果】

生徒の身長・体重・座高については、練馬区・東京都・全国の平均値と大きな差はありませんが、わずかに男子が平均より小さく、女子が平均より大きい結果になりました。

【保健室来室状況】

4月～11月までの来室状況は、体調不良や相談での来室がのべ593名、ケガの来室がのべ207名となっています。体調不良者は行事前や休み明けに多く、ケガは運動会練習のある5月・6月が多いです。ただ、運動会のムカデ競走のストッキング導入で、骨折がなくなり、けが人が大きく減少しました。

【食生活アンケート結果】

朝食摂食率は全校で80%を超えました。ただ、学年が上がるにつれて「毎日朝食を食べる」と答える割合が減り、さらに就寝時間も遅くなっている実態がありました。

今回の学校保健委員会でPTA 役員の方々から出された質問、学校医、学校歯科医、学校薬剤師の先生方からの回答、その他話題を簡単に紹介いたします。

学校薬剤師：教室の廊下側はどうしても他より暗くなってしまいます。ぜひ教室の照明をLEDに変えていただきたいと思っています。

Q 照明をLEDにすることで眼への影響はないのでしょうか？

学校医：照度が基準値内であることが大切なので、LEDでも問題はありません。

Q インフルエンザのワクチンは打つべきでしょうか。また、打った部分は揉まない方が良いでしょうか。

学校医：インフルエンザのワクチンは、接種しても感染することがあります。しかし、それでも予防接種はした方が良いでしょう。手洗い・うがいなどの予防策と合わせて行うと良いでしょう。また、ワクチンを打った後は揉まない方が良いでしょう。



Q 歯列矯正をしている人が多いですが、子どもの歯並びについて教えてください。

学校医：よく子どもの顎が小さくなった、歯並びが悪くなった、と言われますが正確なところはわかりません。しかし、歯並びを意識して歯列矯正をする人は増えています。歯並びが悪いと磨きにくい部分ができ磨き残しも多くなり、むし歯にもなりやすいです。学園中の生徒を見ると、むし歯よりも歯ぐきの腫れの方が気になります。歯肉炎対策にも力を入れてほしいです。

子どもたちの心身の健康は学校教育だけでは育まれません。学校と家庭、そして地域の連携がさらに求められます。生徒の実態や課題を共通理解し、意見交換を行う中で、地域

みんなで生徒たちを育てていく環境を作っていきたいと思っています。

12月8日(火)に行われた練馬区人権週間行事「公演と映画の集い」で、練馬区人権擁護委員の方々から推薦を受けた本校の生徒が、人権作文を朗読しましたので紹介いたします。なお、この作文は全国人権作文コンテストに応募した練馬区の代表作文です。

私の「人権宣言」

第2学年 女子生徒

みなさんは「人権」についてどのように考えているだろうか。私は最近中学校で人権についての講話を受けて、全ての人がある権利を持っており、自分を主張できる権利であるということを理解した。

私が「人権」という言葉を初めて知ったのは、小学生の時だった。友達がふざけ合って「人権の侵害だー」などと言っていた。だから私は、人権とは軽いものなのだ勘違いしてしまった。



しかし、今回の人権講話で「人権とは全ての人々が生まれながら持っている自由と平等のことだ」と聞き、そのイメージは一変した。そして、仲間はずれなどの嫌がらせを受けていじめられている人たちや、言語など様々な面でハンディを抱える障がい者の人たちは、人権侵害という大きな問題に悩むことがあると分かり、これからは私たちが誰でも毎日安心して暮らせる環境を作っていかなければいけないのだと実感した。

ここで私の頭には疑問が浮かび上がってきた。「人権」のことについて知っている人は多いはずなのに、なぜ今現在人権侵害に悩む人が減らないのだろうか。そして、なぜ人は人権侵害を侵してしまうのだろうか。

私の学校には、つい最近生徒総会で承認された「学園中人権宣言」というものがある。これは、十条からなる条例に基づいた、学園中生が充実した三年間を送るために守ってもらいたいことがまとめられたものだ。例えば、第六条の「人の悪口は言わないようにしよう」や第七条の「インターネット上での誹謗中傷は絶対しないようにしよう」など、具体的な内容のものが多い。そして、この学園中人権宣言を守るために、月ごとに目標まで定められている。七月の目標は「友達の良いところを見つけ、誉めよう」だった。それにも関わらず、私は学園中生全員が学園中人権宣言を充分に守れているとは思わない。なぜなら、私も少し悪口を言ってしまったことはあるし、インターネット上での陰口も何度か見たことがあるからだ。

どのようにすれば、このようなことが少しでも減るのか。そこでまず、学園中人権宣言の課題を考えてみた。今のままでは、中身はきちんと実行しやすいものになっているのに、一つ欠けているものがあると思う。それは「拡散力」だ。どんなに良い条例・目標を定めても、生徒に広げなければ台無しだ。事実、学園中人権宣言は五月にあった生徒総会以来、一度も呼びかけをしていなかった。

だから私は、これから「伝える」ということを積極的に行っていきたい。そして、生徒会役員として学園中人権宣言をきちんと機能させたいと思う。例えば、月一回の生徒会朝礼で今月の目標を伝えたり、ポスターに条例を示し廊下や階段に掲示したりする。たったこれだけのことをするだけでも、今以上にこの宣言を身近に感じてもらえるのではないだろうか。それに付け加えて、日常生活の中でも自分から声をかける。例えば、友達が悪口を言っていたら、自分もそれに乗ったり聞き流したりするのではなく、勇気を出してその人を注意できたら、その場の流れも少しは変わると思う。これは、多人数の方が効果があるだろう。このようにすれば、学園中人権宣言を守ることより発展した人権擁護活動がで

きる。

これらが、私の考えた「伝える」ということだ。人権とは、全ての人が持っていて、その一人一人が尊重される権利なのだ。私はこの権利を誰もが主張できる環境を作るために、まずは身近なところから行動していきたい。人権を主張するのは自分だが、それが困難な人もいる。だから、学園中人権宣言は、そんな人を手助けするものにしたと思う。つまり、今まで人権侵害の傍観者だった人が当事者に声をかけるきっかけとなり、結果的に被害者を救い出せるようなものにする、ということだ。そして次に、学園中を発信源として、この宣言を練馬区や東京、日本全体に広げて、人権についてきちんと考えて行動してもらえるようにし、私たちの手で人権侵害のない世の中を作っていきたい。

冬休みを迎えるにあたって

生活指導主幹教諭

冬休みは13日間と短いですが、年末年始をはさみご家族と過ごす時間が多く、皆さんもお正月・お年玉など楽しみにしていることでしょうか。家族の一員としての役割を自覚し、お手伝いも進んでやるようにしましょう。

初詣等にも出かけると思いますが、16歳未満の子供は23時～4時までの外出が東京都青少年育成条例で禁止されています。保護者の皆様にもご協力をお願いいたします。ゲームセンターやカラオケボックスにも子供だけで出入りすることのないようにしてください。また、長期休業前は毎回伝えていますが、SNS等を適切に使用し、他人の悪口や個人情報、不適切な画像の流出がないように十分注意してください。

年が新しくなることは、また新たな気持ちでスタートできる良いチャンスです。1、2年生は新しい学年に向けて、3年生は卒業後の新たな進路を切り開くために、有意義な冬休みになるように過ごしましょう。

平成27年度中学生駅伝大会

11月28日(土)に練馬区立中学校PTA連合協議会主催の中学生駅伝大会が光が丘公園、光が丘陸上競技場で実施されました。本校からは男子2チーム、女子1チームが参加し、男女とも健闘しました。男子は惜しくも入賞はなりませんでした。女子は4位に入賞しました。ただ、順位にかかわらず、代表生徒は最後まであきらめことなくタスキをつなぎ、しっかりと完走しました。



2015「税の標語」入選作品

優秀賞 3年 鳥潟 桃花「思いやり 幸せつなく 消費税」
佳作 3年 箕田 理沙「改めて 考え直そう 税の価値」

平成27年度「税についての作文」

練馬西納税貯蓄組合連合会会長賞 3年 女子生徒 3年 男子生徒
練馬西納税貯蓄組合連合会優秀賞 3年 男子生徒

青少年育成大泉北地区委員会「文化集会」

12月5日(土)に本校の吹奏楽部が青少年育成大泉北地区委員会「文化集会」に参加し、地域の方々に日頃の練習の成果を披露しました。演奏は生徒達の楽しい雰囲気の中で行われ、大変素晴らしかったです。

